

短大入学前に開始するキャリア教育としての情報教育

小棹 理子¹⁾, 内海 太祐^{1,2)}, 岡原 武²⁾, 岩崎 敏之³⁾

1) 湘北短期大学情報メディア学科,

2) 湘北短期大学 ICT センター,

3) 湘北短期大学生生活プロデュース学科

ozao@shohoku.ac.jp

概要: 湘北短期大学では、「社会に本当に役立つ人材」を2年間で育成するために、早期から勉学の動機付けを行う入学事前授業を行ってきた。入学前の段階から、日本語の読み・書き・話す力、ならびに基本的なパソコンスキルなど社会で求められる力を理解させるため、体験重視の入学前単位科目を開講してきた。2011年度4月入学生に対しては、社会人にとって必要とされる基礎学力を向上させることをめざして E-learning を課した。入学前教育の効果について言及するとともに、インターンシップ先企業の協力を得て、教育内容の振り返りも行っている。2012年度には入学事前授業専用のテキストを完成させ、入学予定者ほぼ全数を対象として本科目を確立することをめざしている。

1 はじめに

社会・企業で即戦力となる人材の育成に向けて大学・短期大学ではキャリア教育・職業教育が本格的に導入され、各大学は就業力の向上に向けた教育の充実に取り組んでいる[1]が、入学者の基礎能力低下の問題もあり、ジェネリックスキル（社会人基礎力）の育成が重要な課題となっている。

湘北短期大学では、「社会に本当に役立つ人材」を2年間で育成するために、早期から勉学の動機付けを行う入学事前授業を行ってきた[2]。2008年度入学生対象に試験的に開講した接続講座「コミュニケーションリテラシー」（30名受講）は、翌年から入学後の単位認定科目となり、110名が受講、2010年には高大連携校からの入学予定者対象に176名が単位取得者になった。2011年度は全入学予定者の約80%となる446名の申込みがあり、2月～3月にかけて開講する予定であったが、東日本大震災の影響で3月14日から開始を予定していた後半2クラスが開講不能となった。このため、2月開講の前半2クラス受講生197名のみ単位認定対象者となった。

2010年より受講生に対し社会人基礎力のアセスメントを実施しており、本報告ではその結果や、企業との連携から得られた評価を踏まえて2012年度入学生に対し実施する「コミュニケーションリテラシー」の内容を紹介する。

2 入学前教育科目「コミュニケーションリテラシー」の概要

2.1 「コミュニケーションリテラシー」の内容

入学事前授業を実施する科目である「コミュニケーションリテラシー」では、大学と高校の違いを理解させ、社会で必要とされるコミュニケーション力を発展させることを目標としている。ここで、大学や社会で必要とされる「コミュニケーション能力」とは、高校で学んだ知識をベースとした「[読・書・話・パソコン]により、他人とともに仕事をこなす力」、と定義し、「読み・書き・話す」という日本語コミュニケーションや、「パソコン」という情報通信社会におけるコミュニケーションツールの基本を確認したのち、グループで問題を設定し、解決し、プレゼンテーションを行う構成となっている[2]。

なお、2011年度は、「ノンバーバルコミュニケーション」を2講新規導入しており、後述のWeb課題を試験的に課した。

2.2 社会人キャリアアセスメント

コミュニケーションリテラシーは、短大の2年間で獲得すべき社会人力を早期より生徒（学生）に理解させ、その後の学業意欲を高めることをめざしている。その目的が達成されたかどうかを測定するために、受講前の2～3月に自己評価と客観評価を行い、2か月後に自己評価と客観評価を再度行ってその推移を確認する。これら自己評価

と客観評価を行うために、社会人キャリア力育成アセスメント委員会主催の「社会人キャリア力育成アセスメント」(日本インターンシップ推進協会(JIPC) 主管) を実施した。社会人基礎力問題 60 問、社会常識力問題 40 問、さらに自己評価 16 問を加えた計 116 問からなっており、結果はチャート化されて個人と大学に報告される。

2.3 Web 課題

2011 年度の新たな試みとして、2 月の授業終了後、4 月の新学期開始までの間に Web での課題を課した。外部業者のサービスを利用し、内容は、「ことば(42 問)」、「生活(44 問)」、「計算(42 問)」、の 3 分野である。3 月 31 日までの Web 課題の総アクセス数は 920 件、受講生 196 人のうち、115 人が課題に取り組んだ。

3 コミュニケーションリテラシーの効果

コミュニケーションリテラシーの有効性は、①受講生へのアンケート調査(受講直後、受講 1 年経過後)、②社会人キャリア力育成アセスメントにより実施している。

3.1 受講生へのアンケート調査

受講生に対し、受講直後、ならびに受講 1 年後に振り返って「コミュニケーションリテラシー」に対する評価を聞いている。表 1 に 2010 年入学生に 1 年前を振り返って、この授業が役に立ったかどうか、評価を聞いた結果を示す。

アンケート結果から、受講生の 90%以上が「大変役に立った」「役に立った」と答えており、受講生に一定の評価が得られていることがわかる。保育学科(P)では、昨年度は、専門分野からずれているとの感想があったが、今年度は、社会人として基本的な汎用能力を育成するための導入科目、と位置付けした結果、「大変役に立った」「役に立った」と答えた率が昨年度の 70%から著しく向上した。

表 1 1 年後の振り返りアンケートの結果(学科別)

	情報	総合	生活	保育	全体(人)	全体(%)
大変役に立った	8	8	6	7	29	21%
役に立った	18	22	33	23	96	69%
役に立たなかった	0	2	1	1	4	3%
なんとも言えない	3	3	1	2	9	6%
その他	0	1	0	0	1	1%
無回答	0	0	0	0	0	0%
合計	29	36	41	33	139	100%

3.2 社会人キャリア力育成アセスメント

2010 年度入学生に対し、受講前(2 月 8、9 日)と受講後(4 月 17、24 日)にアセスメントを実施し、自己評価と検定結果を比較した結果を得ている[3]。伸長の認められた社会人基礎力は、「働きかけ力」、「課題発見力」、「計画力」、「発信力」、「傾聴力」、「状況把握力」であり、課題の発見と解決をテーマとしてグループ作業を取り入れていること、とくにプレゼンテーショングループでは役割分担とグループメンバーの貢献度評価が設けられていることの効果であると考えられる。一方では、2-3 か月間では身につけることが難しい力もある。日本語力が一朝一夕に身につく力ではないことは容易に理解できる。計算力も不十分であった。継続的に反復学習が必要とされることが示唆された。

3.3 Web 課題に対する受講生の反応

反復学習が必要な基礎学力を向上するために、2 月末~4 月までの間に Web 課題を課した。登録者 197 名のうち、85.3%がアクセスし、平均アクセス回数は 10.8 回であった。受講生に対し、アンケート調査を行った結果の一部を表 2~表 4 に示す。

表 2 Web 課題に対する興味

	E	C	L	P	全体
面白かった	4	9	5	7	25
やや面白かった	12	23	18	38	91
あまり面白くなかった	3	21	12	6	42
面白くなかった	2	0	1	2	5
無回答	1	12	13	1	27
合計	22	65	49	54	190

表 3 難易度

	E	C	L	P	全体
易しかった	2	5	1	3	11
やや易しかった	5	13	7	6	31
やや難しかった	10	25	19	34	88
難しかった	4	11	9	10	34
無回答	1	11	13	1	26
合計	22	65	49	54	190

表 4 有用性

	E	C	L	P	全体
役に立つ	7	18	8	24	57
やや役に立つ	13	31	26	29	99
あまり役に立たない	1	4	1	0	6
役に立たない	0	1	1	0	2
無回答	1	11	13	1	26
合計	22	65	49	54	190

表 2～表 4 の結果から、Web 課題の内容に対して 6 割以上がおおむね興味を持てた、としており、有用性に関しては 82%が役に立つ、としている。その理由としては、入学後、さらに就職までを視野に入れた内容となっているからと答えている。難易度に関しては、「やや難しい」が 5 割弱、と想定どおりになっているが、分量に関しては、23%が「多すぎる」、47%が「やや多すぎる」としており、今後の検討を要する。

3.4 企業に対し実施したアンケート評価

2010 年 3 月 4、5 日に、合同企業面接会参加の企業に対し、本学卒業生に対するアンケート調査を実施した。回答数 95 社であった。

一般的な評価項目となっている基礎能力に対する評価結果を図 1 に示す。平均より優れている、とした項目順に並べてある。この結果から、コミュニケーション能力や就労意識、PC 基礎能力に対しては一定の評価が得られているのに対し、一般常識、企画提案能力や交渉・説得能力に向上が求められていることがわかる。また、図 2 は、態度

図 1 本学卒業生に対する企業の評価

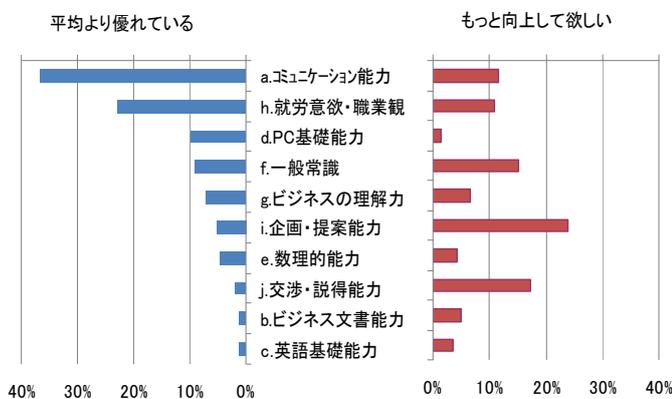
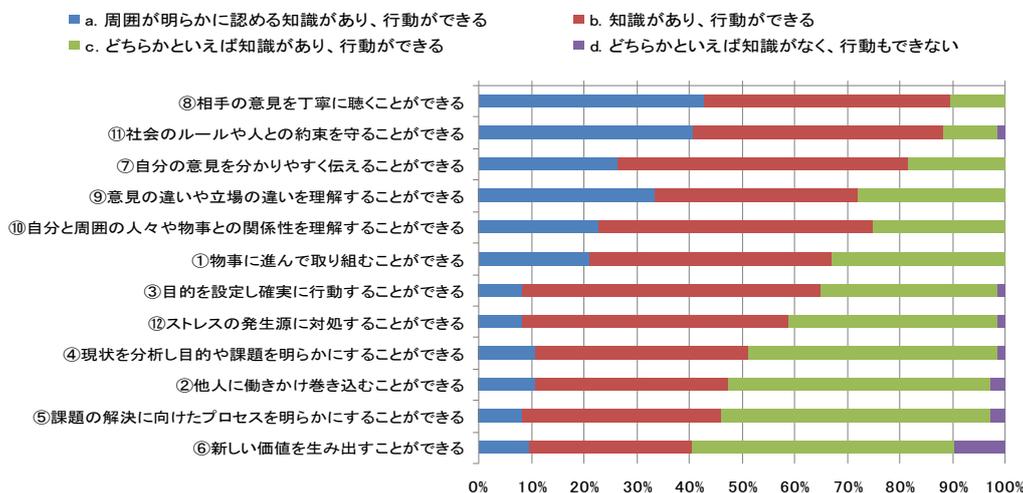


図 2 本学学生に対する社会人基礎力の評価



や行動に表れる社会人基礎力に対する評価である。ここでも、傾聴力や規律性などの評価が高いのに対し、「新しい価値の創出力(提案力)」や「他人を巻き込む力(企画力・主体性・行動力)」の向上が求められていることがわかる。

4 まとめと今後の課題

湘北短期大学では、平成 21 年度文部科学省選定 大学教育・学生支援推進事業【テーマ A】「現代型社会人育成を俯瞰する入学前教育構築」事業として、出口(就職)を視野に入れた入学事前授業を実施する科目を構築中である。2010 年度結果を踏まえ、2011 年度は e-ラーニングの導入を決定した。一方で、教育効果の評価を企業連携の中で行っている。これら試みを踏まえ、2012 年度入学生に対し、最適な科目を提供したいと考えているが、学科ごとの専門性の反映や、入学後の後継科目の連携が今後の課題である。

参考文献

- [1] 文部科学省 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(平成 23 年 1 月 31 日) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htm (アクセス: 2011 年 10 月 20 日)
- [2] 小椋理子他、「情報教育からキャリア教育へ」、(社) 情報処理学会 研究報告 2008-CE-94 (2009); 小椋理子・伊藤善隆・岩崎敏之・高橋可奈子・藤澤みどり・佐藤明宏・原満・関祐太郎、”短大型入学前教育「コミュニケーションリテラシー」の構築”、日本教育工学会研究報告集 JSET10-2、pp77-80 (2010) .
- [3] 小椋理子・伊藤善隆・岩崎敏之・高橋可奈子・藤澤みどり・原田香菜、”キャリア教育の一環としての短大型入学前授業”、日本教育工学会研究報告集 JSET10-5、pp13-16 (2010)